

§ 5. 『真の循環型社会へ』

主題 「どのようにすれば循環型社会はできるだろうか」

1. いろいろな製品のリサイクル率

Bさん：Aくん。ペットボトル、ポイ捨てしちゃダメじゃない。

Aくん：いけない。ゴミはゴミ箱に…と。

Bさん：あーあ、ペットボトルはゴミじゃないのになあ。

Aくん：どういう意味？

Bさん：リサイクルしているってことよ。

Aくん：ということは、ゴミじゃなくて「資源」ってことだね。

Bさん：今、いろいろなものがリサイクルされているね。

Aくん：それぞれのリサイクル率ってどれくらいなのかな？



身の周りにあるもののリサイクル率はどのくらいなのだろうか。それぞれの数値を予想して、リサイクル率の高いものはどれか考えてみよう。また、なぜそのように考えたかという理由を書き出し、周りの人と共有しよう。

ペットボトル 	洋服 	冷蔵庫 	自動車 	スマートフォン 
%	%	%	%	%

WS 1

上のように考えた理由

Aくん：Bさん、リサイクルって「もう一度使う」ってことだよね。

Bさん：そうなんじゃない？

Aくん：似てる言葉があるよね。何て言うんだったかな。リ、リ…。

先生：Aくんが言いたいのは「リユース」かな。

Aくん：それです！ リサイクルが「もう一度使う」ことなら、リユースは…。

あれ？ 「もう一度使う」？ 同じ意味になっちゃうな。

先生：言葉の意味は、こういうことだよ。



●リユース (Reuse)：使用済みの製品やその部品を再使用すること

つまり、みんなの生活の中で言うと、衣類などの使わなくなったものをフリーマーケットやネットフリマで売って、もう一度使ったりすることだね。

●リサイクル (Recycle)：廃棄されたものを原材料やエネルギー源として再資源化すること

例えば携帯電話。都市鉱山とも言われていて、資源の宝庫なんだよ。東京オリンピック・パラリンピックのメダルは、不要になった携帯電話などから金属を取り出して作られていたね。資源として、もう一度利用するということだね。

●リデュース (Reduce)：使用量そのものや廃棄量を少なくすること

レジ袋の有料化がこれに当たるね。エコバッグを持っている人が多くなって、レジ袋を使わなくなった。それで使う量、捨てる量を減らしているね。

この3つを3Rと呼んでいるんだ。

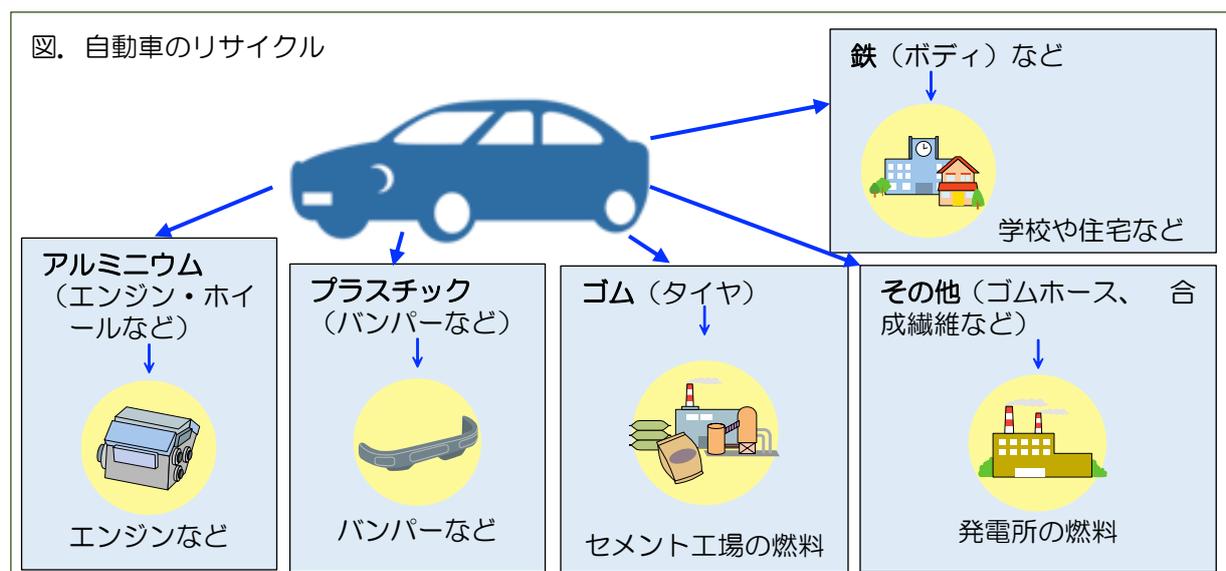
Bさん：なるほど。中古車なんかはリユースの部類に入るといっていいですね。

先生：そうだね。ちなみに、自動車は中古車として再び市場に出回るものがあるから、これはリユース。

使用済自動車のボディをシュレッダーにかけて粉砕し、原材料化して別のものに生まれ変わらせるのはリサイクル (下図)。

そして、リサイクル率を高めて廃棄物を少なくしたり、製品の寿命を長くして使う量と捨てる量を減らす取り組み、これはリデュース。

自動車は3Rを実践していることになるね。



2. 自動車のリサイクル

先生：自動車のリサイクル率は100%近いって、以前から知ってたかな？

Aくん：すごいと思いました！ 驚きです。

Bさん：どうやったらそんなふうになるのかしら？

先生：続きは明日の授業で話そう。2人とも理由を考えておいてね。

WS2-(1)

自動車のリサイクル率が高い理由を考えて書き出そう。また、周りの人と考えを共有しよう。

先生：自動車業界に対しては、地球環境問題への貢献が求められてきたと言えるね。また、リサイクルシステムを支える手段として、クルマを買うときにリサイクル料金が求められていますよ。

Aくん：え！ お金を払っているってこと？

Bさん：自動車の代金は当たり前だとして、リサイクルの料金も私たちが払うの？

先生：リサイクル料金は新車を買うときに支払い、その証明としてリサイクル券を受け取ります。次にそのクルマを中古車として買う場合は、次の購入者がリサイクル券とともにリサイクル料金を含んだ代金を支払います。つまり、その前に新車として買った人にはリサイクル料金が戻ってくるのです。リサイクル料金を負担するのは、そのクルマに最後に乗っていた最終オーナーということになります。

リサイクル料金とは

- 将来リサイクルするときのために、クルマを買うときに支払う
- クルマによって異なるが、6,000円～18,000円くらい
- クルマを売った（譲った）ときに、戻ってくる

自動車のリサイクル料金の流れ（イメージ）

- ・ケース①：新車で購入し、使用済自動車になるまで保有

新車購入者
購入時に支払



- ・ケース②：中古車で購入し、使用済自動車になるまで保有

新車購入者
購入時に支払、次のオーナーへ
譲渡後に返戻



クルマ

中古車購入者
購入時に支払



リサイクル料金*

最終処分業者
リサイクル費用に充当



*実際のリサイクル料金管理は、資金管理人が行っている

自動車のリサイクルに関する法律は、自動車メーカー／所有者／販売する人／解体する人など、関係するすべての人の役割を決めて、みんなが協力してリサイクル社会を作っていくことを目的としています。

自動車メーカーなどには、温暖化に影響を与えるフロンなど特定物質の適正処理が義務づけられています。そして、クルマの所有者はリサイクル料金を支払うことになっています。

先生：ところで、リサイクル料金の負担の仕方には、製品によっていくつかパターンがあるのを知っていますか。主なものを紹介しましょう。

- ①自動車のように購入時に先払いをする
- ②冷蔵庫などの家電製品のように処分時に支払いをする
- ③メーカーがあらかじめ製品の価格に上乗せしている（リサイクルのための負担額は表示されていない）

さて、どの方法がリサイクルには効果的かな。

WS2-(2)

リサイクルを進めていくために効果的な方法は、①～③のどれだとあなたは思いますか。処分時にどのようなことが起きるか、確実なのはどれかということを想定しながら考えてみよう。

コラム（1）：税負担に関する意識

自動車の燃料であるガソリンには、価格の約半分の税金が課せられている（消費税除く／ガソリン1リットルに含まれる税金は、ガソリン税53.8円、石油税2.8円）。

購入時のレシートには、右写真のように消費税以外の税額表記がない場合や、あったとしても“内税”表記されており、購入者はその税負担の大きさを実感しにくい。石油関連業界等では、税負担の軽減を訴えているが、その実現には、まず購入者にもこの負担の大きさを実感させることが重要なのではないだろうか。

本来の商品価格と具体的な税額を分けて“外税”表記すれば、税に対する個人の人々の意識は変わってくると思われる。

クルマのリサイクル料金は税ではないが、購入時の費用として支払っていることで、負担額やその目的が理解しやすくなっている。各種税負担の理解を深め、人々の社会参画を促すためにも、リサイクル料金負担の仕組みから学ぶべきことがあるのではないだろうか。



コラム（2）：ガソリン価格のコントロール政策

コラム（1）で挙げたガソリンには、原油価格高騰時にも社会・経済活動への影響を抑えるべく、税金を引き下げるルール「トリガー条項」(*)が設けられている。2010年導入も、翌年の東日本大震災の復興財源確保を理由に、同条項は凍結されたまま現在に至る。2021年11月には、原油高に伴い同条項発動の声が高まった。

一方、カーボンニュートラル社会実現のため、従来の化石エネルギーから再生可能エネルギーへのシフトが必要な状況にある。将来を見据えれば、このようなガソリン価格をコントロールする施策に頼るのではなく、カーボンニュートラル社会への移行が円滑に進むような思考、仕組み作りこそ求められるのではないか。

*課税対象の「揮発油税」と「地方揮発油税」の特別税率分25.1円を徴収しない。

3. 循環型社会を作るために

先生：みんな「循環型社会」という言葉は聞いたことがあるかな？

Aくん：限りある資源を効率的に利用する社会のことです！

Bさん：再資源化を進めることで、持続可能な社会を構築していくことです！



先生：すばらしい答えだね。その通りだよ。

では、別の聞き方をするね。「循環型社会」を作り上げるために、努力する必要があるのは誰なのかな？

Aくん：国の政治のトップの人とか。

Bさん：資源を使って、物づくりをしている会社の人もそうじゃない？

先生：もちろん、そういった人や組織が参画する必要があるよね。さて、誰か忘れていないかな？

Aくん：もしかして、僕たち自身…とか？

先生：そうだね。使う側である私たち自身も、使ったものを再資源化につなげる役割を担っていると言えるんじゃないかな。「買って、使って、捨てる」という一方通行ではなく、もう一度使うサイクルに戻していくという努力をみんなが払ってこそ「循環型社会」が達成できると言えるんだね。

WS3

「循環型社会」を構築するにあたってあなたができること、社会全体としてもっと取り組めることは何だろうか。考えを書き出し、周りの人と共有しよう。

4. 「真の循環型社会」に向けて…グローバル視点と日本の国際社会への貢献

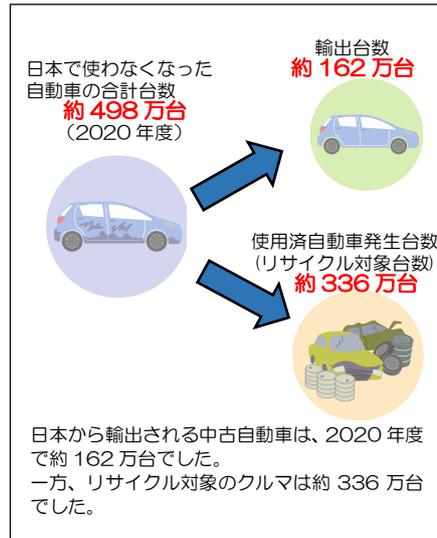
先生：さて、右の写真を見て、何か気がついたことがあるかな。

Bさん：ミャンマーのバスですね。あれ？このマーク見たことがありますよ。

先生：そうだね。実はこれ、日本の中古バスなんだ。日本から海外へ、年間約162万台もの中古車が輸出されているんだよ。

Aくん：そういえば海外で働いている兄が、日本車は人気があって、街中で日本の中古車をよく見かけると言っていました。

Bさん：世界で活躍しているなんて嬉しいです。日本国内では「循環型社会」のための仕組みができていることは分かったのですが、こうして海外に出た日本の自動車の行く末についても考える必要がありますよね。



WS4

「真の循環型社会」に向けて必要な取り組みは何だろうか。グローバルな視点と、日本の国際社会への貢献といった側面から考えを書き出し、周りの人と共有しよう。